

令和8年度第1回高知県スポーツ振興県民会議 議事録

日時: 令和8年7月31日(金)13:00～15:05

場所: サンライズホテル 向陽の間

出席委員: 安達委員、井上委員、今城委員、大坪委員、桑名委員、橋谷氏(小林委員代理)、
櫻井委員、竹島委員、武市委員、寺村委員、中平委員、前田委員、丸委員、村田
委員、矢野委員、柳委員(委員20名中16名が出席)

議 事: (1) 第3期高知県スポーツ推進計画の取組状況等について

議 事: (2) 第4期高知県スポーツ推進計画について

その他 ・新県民体育館の整備等について
・部活動の地域展開について
・令和7年スポーツツーリズムによる経済波及効果等について
・高知龍馬マラソン2026の経済波及効果について

開会

○知事挨拶

皆様、こんにちは。知事の濱田でございます。本日は皆さま大変お忙しい中、またお暑い中、本会議へご出席いただきまして誠にありがとうございます。日頃より本県のスポーツ振興に関しまして、格別のご協力をいただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。県におきましては5年ごとの計画であります高知県スポーツ推進計画に基づきまして、スポーツ振興を図っております。

第3期計画は令和9年度までの計画に基づき行っておりますが、大きく3本の柱、県民の皆様へのスポーツ参加促進、そして競技力の向上、さらにはスポーツを通じた地域の活性化、こういった3つの柱に基づきまして、施策を展開をまいっております。

前回会議を開催いたしました昨年11月以降の主な状況について、簡単にご紹介をさせていただきますと思います。まず昨年11月には、東京2025デフリンピックが開催されました。高知県勢といたしまして、陸上競技の中西椋選手、岡田泰尚選手が出場され、見事入賞をされております。昨年12月でございますが、高知県スポーツ応援大使といたしまして、櫻井つぐみさん、そして清岡幸大郎選手、清岡もえ選手、鬼谷慶子選手の4名を委嘱させていただいております。今後もぜひ本県のスポーツ振興にも大きく寄与いただければというふうに思っております。

そして、櫻井つぐみさんには、本年4月に選手生活に一区切りをお付けになったということ

でございます。香南市で指導者として新たな道を歩まれております。トップアスリートとして培われた経験を次の世代の選手の育成に生かしていただきたい。また、本会議におきましても若い世代の声をライブにいただけるということを大いにご期待を申し上げたいと思います。

年が明けまして、今年1月にいわゆるeスポーツのイベント、高知eスポーツフェスティバル2026が開催をされました。幅広い世代で関心が高い新たなスポーツ、ゲームの大きいようなものでございました。子どもから年配の方まで今回は3,000人を超える参加があったと、大変盛り上がったというふうにお聞きをしております。

その他にも、いわゆるアーバンスポーツ、新しいスポーツといたしまして、ダンスやBMX、こういったスポーツの推進に本県としては取り組んでおります。若年にとって魅力のある、そして若者が活躍をすることができる、そうした高知県の実現に向けまして、スポーツの振興策という観点からも、若者へのアプローチを図ってまいりたいと思います。これが本県の大きな課題である人口減少の克服ということに寄与しているのではないかという思いでございます。

そして、今年2月には高知龍馬マラソン2026を開催いたしました。参加者フルマラソンのエントリー者数も2年連続で1万人を超えるというところまでまいりまして、大きな傾向としてはコロナ禍前の水準まで回復が来ているということだと思います。

沿道の皆さんの温かい応援、そしてコースのおもてなし、こういった文化がリピーター、そして新しいランナーの獲得にしっかりとつながっていると考えるので、この龍馬マラソンは今後も大事にしていきたいと思っております。

さらに新県民体育館の整備についても一言お話をさせていただければと思います。この新しい県民体育館の整備につきましては、ここ2年ほど検討会を設置いたしましてご議論をいただいてまいりました。

先月6月に基本計画を策定をいたしまして、有識者会議でありますとか、パブリックコメントなどでいただいたご意見も踏まえまして、その上で、先に閉会しました6月の県議会に補正予算を提案いたしまして、基本設計及び実施設計など、あるいは地質調査などに係る補正予算について、県議会の承認をいただきまして、いよいよ整備の段階に入っていくということになります。

社会体育施設という基本的な性格に立ちながら、メインアリーナに関しましては5,000人規模の文化イベントなどにも対応できる、そうした施設として整備していきたいと考えております。

できるだけ早期の供用開始を目指しながら、一方で、この整備計画作成にあたりましては、色々なご意見もいただきましたので、たとえば基本設計を完了する時点など、今後の整備の節目におきましては、県議会あるいは県民の皆さんに説明を尽くしてご理解をいただきながら、丁寧に関この整備を進めていきたいと考えております。

また、こうした新県民体育館の整備を見据えまして、本年度から新たに屋内プロスポーツの大会の誘致にも取り組んでおります。今年9月にはBリーグに所属するチームのエキシビジョンゲームの県内初開催が決定いたしております。こうした好機をしっかりと生かしまして、スポーツツーリズムによります県外からの入込客数の増加という成果にもつなげてまいりたいと思います。

この他、今日は桑名市長にもご出席いただいておりますが、県内市長さんの集まりのなかでも、昨今のいわゆる部活動の地域展開、中学校等におきまして、地域のスポーツクラブなどにそのメインの場面を移していこうということですが、これについても最近色々な動きがございますので、本日ご報告をさせていただきまして、ご意見等ございましたら、お聞かせいただければと思っております。

最後になりますが、国におきましては、令和8年度中に国としての第4期スポーツ基本計画を策定するという事で作業を進められております。本県のスポーツ推進計画も国から一年遅れで5年間の計画を立てるという対応をしておりますので、本県もこの国の動きを踏まえまして、来年度中に新しい5カ年の計画を作成したいと考えております。

以上、前置き大変長くなりましたが、本日の会議におきましては、国の第4期基本計画に関する中間報告、そして県の計画作成に関するスケジュールについて説明をさせていただいた上で、委員の皆様方には、今年度の主要な施策の取組状況のご報告をお聞きいただきまして、今後の方向性につきまして、我々としての整理をさせていただいておりますが、ご議論をお願いをし、ご意見をいただければというふうに存じます。

本県のスポーツ政策がより実効性のあるものになりますように、本日限られた時間でございますけれども、皆様方のそれぞれの立場からの忌憚のないご意見、ご助言をいただければと思います。本日、どうかよろしくお願い申し上げます。

●会長・副会長選出(事務局)

会長選出に移りたいと思います。昨年度まで当会議の会長を務めていただきました、高知県スポーツ協会 前会長の青木章泰様が本年6月にご退任され、当県民会議の委員も辞さ

れましたことに伴い、新たに会長を選出する必要がございます。

新たな会長につきましては、高知県スポーツ振興県民会議条例第6条の定めのとおり、委員の互選によって定めることとなっております。それでは委員の皆様方に新会長の立候補またはご推薦をお願いいたします。

ございませんでしょうか。それでは事務局からご提案させていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、事務局案を申し上げます。

会長に、県民会議の副会長である高知大学副学長の矢野宏光副会長をご提案させていただきます。これに伴い副会長1名が不在となりますので、新たな副会長には高知県スポーツ協会会長の今城純子委員をご提案させていただきます。

事務局案にご承認いただけます方は拍手をお願いいたします。ありがとうございます。それではご承認いただきましたので、矢野会長はおそれいりますが、前方の席にお移りいただきますようお願いいたします。

では、これより先の会議の進行につきましては、矢野会長にお願いしたいと存じます。

○矢野会長挨拶

高知県スポーツ振興県民会議の会長に就任いたしました矢野でございます。

本県のスポーツ振興に向けた会議の会長ということで、職責の重さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。まずは、これまでの県のスポーツ振興にご尽力いただいた前会長をはじめ、委員の皆様、そして関係機関、団体の皆様に敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

スポーツは健康づくりはもちろん、子どもたちの成長を支え、人と人との繋がりを深め、地域に元気をもたらす大きな力を持っております。高知県では第3期高知県スポーツ推進計画において、スポーツの楽しさや感動を共有し、希望と活力のある社会の実現を基本理念に掲げ、スポーツ参加の拡大、競技力の向上、スポーツを通じた活力ある県づくりを推進しております。

本会議においても、この理念を共有し、行政や競技団体、学校、企業、地域の皆様と力を合わせながら、「する・みる・ささえる」といったスポーツの輪をさらに広げていきたいと考えて

おります。

本日の会議においては、皆様のそれぞれのお立場から、また幅広い視点で本県のスポーツ振興に向けた様々な意見を賜りますとともに、我々委員自らが主体的に行動し、本県スポーツの振興に力を尽くしてまいりたいと存じます。

最後になりますが、スポーツの力で県民の皆様に勇気を与えることができますよう、本日ご臨席の皆様のお力添えをお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の次第に沿って会議を進めていただきたいと思います。なお、本日は「議事」と「その他」で協議時間を分けて進行することといたします。それでは初めに、議事の「(1)第3期高知県スポーツ推進計画の取組状況等について」、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

議事(1)について、資料 1-1～1-4 を使用して説明。

○矢野会長

それでは、施策目標の柱ごとに、ご意見、ご質問等の協議を行います。まずは、先ほどの事務局からの説明がありました柱1 スポーツ参加の拡大について、ご意見ご質問ございませんでしょうか。

発言される方は、マイクを回しますので挙手をお願いいたします。様々な内容は盛り込まれておりますが、その中でピンポイントで、ここについての意見・質問ということで結構です。いかがですか。

そうですね。なかなか一番最初というのは、きついところではございますが、私の方から口火を切らせていただきます。先ほど事務局の説明にございました、例えば(3)スポーツを支える人材の育成というところがございますが、本県の1番の課題はスポーツ指導者の不足でございます。

部活動の地域展開においても、この課題はクリアしなければいけないところでございます。そこで県は、「スポーツ指導者確保推進部会」を作りまして、その座長を私が務めているわけですが、今考えているのは大学生を活用することができないかということです。

この検討を具体化していくことが大事になってきます。例えば、四万十町の教育委員会は、実際に11月に高知大学にバスで平日に来て、そこで各種目、様々な指導をしてくれる学生たちを乗せて、四万十町に行き、各学校に分かれて指導してもらう。そして、学生をバスにまた乗せて、高知大まで送る。日帰りできないだろうかという、実際的な検討を始めます。

これが1つの試金石となって、1つのプログラムになれば、その拡大がこれから図っていけるんじゃないかと思っています。その人たちに対してどんな研修が必要だろうか。学生たちも非常に不安を抱えながら、指導者としてやっていけるだろうか。具体的には、もし事故があった時にどうしたらいいだろうか、あるいは保護者との対応までやるのはちょっと荷が重いなどか、様々なことを考えていますが、そういうことも1つの研修プログラムまで作ってやったらいいよねというところを、今考えているところでございます。

ですから、私が言うのもなんですが、県は部活動の地域展開に向けて、具体的な歩みを進めているということでございます。様々な地域の中でも取組を考えていってくださっているところがあります。

例えば、総合型地域スポーツクラブなんかでも、そのような取組というのが検討されてる所はあるかと思います。この件に関しては、本県の総合型のトップランナーでもあります武市さんがいらっしゃるので、武市さんから今回の柱1についての意見でも結構ですので、検討も踏まえてご意見をいただければと思います。

○武市委員

高知県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会理事長の武市です。今、第3期スポーツ推進計画から第4期に向けて、少し総合型地域スポーツクラブの地域における位置付けがはっきり見えてないことが、意外と見えてきたのかなと思います。

実施団体ではなく、プラットフォームとして、スポーツ少年団や他のスポーツ団体は指導資格を持っているのですが、総合型は実は指導資格ではなくて、クラブマネジャーという資格、マネジメント、コーディネートをしていく資格の団体になります。

部活の話や地域の高齢者の健康といったことが、地域にあるのですが、実は地域の市町村にそれを取りまとめている組織ってあるんでしょうか。バラバラであるのが現状じゃないかと。

実際、地域のスポーツ全体をコーディネートできるプラットフォームが、できている市町村と

できていない市町村の二極化している所もあるんじゃないかなと私は思っています。

全体では、推進計画をスポーツツーリズムとか、スポーツコミッション、国際大会・全国大会の誘致、これは高知県にとって経済活性化のためには絶対必要な計画だと思ってます。

ただ、地域スポーツを支える基盤づくりについては、第3期から第4期にかけては、もう少し絞っていただきたいなという思いがしております。地域スポーツを支える基盤として、これから必要なのは競技団体ではなくて、競技団体を繋ぐ組織です。

学校・行政・企業・医療・福祉・地域住民・競技団体と保護者をコーディネートする組織って、意外と行政にはないんじゃないかなという気がするんですね。でも、これから学校の働き方改革も進んでいきますので、それをどうやって地域に出していくのか。

マネジメントをコーディネーターが、やはり部活動の地域展開にも公益性をどう考えて、経済的負担があるとスポーツができない子どもたちが増えないようにするのを、やはり地域全体で考えていくということが必要かと思っております。

ということで、第3期から第4期に向けては、今正直、高知県総合型地域スポーツクラブの連絡協議会のなかには、スポーツ協会のなかにもそうですけど、クラブアドバイザーというコーディネーターが不在の状態でございます。そこをやはり地域で、クラブアドバイザーの役割を動かしていくような、第4期に向けての政策をもう一度見直していただきたいと思っております。

●事務局

第4期計画はこの後ありますが、武市委員が言われるように、地域の子どもからお年寄りまで、たくさんの参加者を担っているのは総合型スポーツクラブだと。スポーツ少年団は子どもの部分になりますので。まさに部活動の地域展開が起こっているなかで、国の方もコーディネーター、学校とかクラブとか行政とか、そういったところを結ぶようなコーディネーターを予算化してくれています。県内でも6名ぐらい？今年、地域展開に向けて、コーディネーターを配置していますので、各市町村がしっかり配置していただけるよう、県教育委員会と連携しながら、各市町村で取組が進むよう、しっかりしていきたいと思います。第4期計画でも大事なことでありますので、しっかりそういうところも入れていきたいと思います。どうもありがとうございます。

○武市委員

部活動の地域展開の受け皿だけのコーディネーターではなくて、子どもから高齢者までの多世代、多種目をしっかりとコーディネーターできる、部活動の地域展開に向けてのコーディネーターをぜひ養成していただきたい。2極化しているので。ただ部活の数を地域に出せば達成率で終わりというようなコーディネートが主になっているじゃないかと懸念しています。

○竹島委員

竹島です。よろしくお願いします。矢野会長が言われたように、大学生を指導の方にというのは私も考えておりまして。私自身、工科大学の女子バレー部を見ていまして、くろしおキッズのコーチをするときに学生を使っています。

子どもたちと年齢が近いということもあって。お姉さん、これ教えてと、すごく声をかけやすい。年配の方が教えるより声をかけやすいのかなと思ひまして。ただ会長が仰ったように、高知県の地形を考えた場合、バスで日帰りとか、なかなか厳しいかなと思う反面、遠くから市内に来てもらうよりは、1つの団体として動いて、そちらの方でいくつかチームを集めて、何十人、何百人とまでは言いませんけれども、指導していくような方法も考えられます。

ただ、春から秋ぐらいまでがシーズンですので、オフシーズンの冬場ですね。冬場に工科大や高知大などのクラブ活動があると思いますので、そこら辺をもう少し利用してもいいんじゃないかと思ひます。

それには、やはり横と縦のつながりが、密にならなければいけないと思ひます。一度、武市さんの方の「まほろば」からも、ジュニアのバレーチームが来てくれて。短い時間ですけど一度やってもらって。それからまた武市さんも「1回戦勝ったよ」「2回戦まで行ってるよ」ってことを私に連絡くれますので。やはり、ジュニアに対しては動ける指導者がいいと思ひます。

私達になると口だけなんですけれども。学生が「こうやってやった方がいいよ」とアドバイスすれば子ども達と仲良くやっていきますし。それが「バレー楽しいな」「陸上って楽しいな」ということになって、中学校・高校・大学と続けてくれればいいと思ひます。よろしくお願いします。

○矢野会長

はい、ありがとうございます。今、竹島委員さんから大学生の活用というお話がありましたが、本日委員の中で大学に所属されている前田委員、いかがでしょうか。前田先生のところで、大学生の活用の可能性について、いかがでしょうか。

○前田委員

はい、ありがとうございます。2、3年前からそういった調査をさせていただいていますと、大学生の中には部活動を一生懸命やっている子達もいれば、高校までは一生懸命やっていて、大学ではサークル活動でやっていたりという方達の中にも、小学生ぐらいだったら一緒にスポーツをやってみたい、中学生ぐらいでも自分の持っている力を発揮して教えたいと、よく思っている方が、一定数いることが分かってきています。

少しツーリズムの部分にも関わってくるのですが、学生が研究の中でやっていることとして、この前、土佐清水市の総合型地域スポーツクラブのスクラムさんにお伺いした時に、卓球部の学生が合宿したいという要望を持っていました。県外に行くとお金もかかるし、難しいという中で、高知県内でいけるところはないかという話をしたところ、非常にちょうどいいというお話をいただきました。

観光の部分を含めて、廃校などを利用して、安く泊まれる宿舎などを構え始めています。例えば2、3日滞在する中で、2日目の午前中だけでも地域の子供達を集めて卓球の指導をしてくれるなら、謝金などを出せるという話もあってですね。そこらの部分をつないでいくことが出来ると、先ほど竹島委員が仰ったような、普段は60歳代ぐらいの指導者が教えている中で、若い方にも触れあいたいというニーズもあって、かなりウィンウィンにいているんじゃないかとがあります。

学生たちの中では、合宿に来るだけじゃなくて地域のところで指導したり、イベントを行ったりしてもらおうと、1からプロの団体を連れてくるのもいいですが、そういったところで県外からも大学生を活用するようなことはできてるんじゃないかなと思います。

●事務局

はい、ありがとうございます。本当に大学生の活用については、スポーツ指導者確保部会で矢野副学長に部会長になっていただいていますけど、その中でもどうやっていくかという課題はあります。

言われたように、大学生が中学生などを指導する場合、どんなことに気をつければよいか。やっぱり色んなことが出てくるので、まずはそういったものの研修ができるようなこともやって。今言われた四万十町とか実証できるので、そこで大学に研修とかできないかということで、矢野副学長とも話しているところです。

それから先ほど言われた県内にいろんな大学がありますので、できるだけそこと連携していくように、まずはこの推進部会の方でしっかり練って、各大学の方をお願いしていこうかと思っておりますので、ぜひその際はご協力いただけたらと思います。どうぞよろしくお願いします

○矢野会長

それでは次に柱の2番、競技力向上に関してのご意見・ご質問はございませんでしょうか。はい、お願いします。

○桑名委員

はい。高知市長の桑名でございます。

スポーツ科学センターには大変期待しておりまして、私が県議会議員のときに、ぜひこういうものは作るべきだということで、私も全国のスポーツ科学センター等も見てきたところでございます。

最近ちょっとお伺いしてないんですけれども、実績の方も上がっていて期待もするところなんですけど、せっかく素晴らしいデータをお持ちながら、今度また同じような指導者の問題になるんですけれども、そのデータを元に指導ができていない競技というものも多分あるかと思えますし、そのデータは取りっぱなしで終わっているというような競技もあるんじゃないかなというふうに思っております。

今の現状、こういった形でこのデータが、子どもたち、選手たち、アスリートたちに共有されて、使われているのかというところを教えていただければと思います。

○村田委員

スポーツ科学センターの村田です。現状のデータ活用としては、まず体力測定をするということがありますが、こちらは普段の練習やトレーニングを評価するために、現状をまず知ること、その現状をデータで知った上で、今後のトレーニングや練習についてどのような方向性でいくか考える材料としていきます。

さらにトレーニングや練習が進んだあとに、また体力測定を行って、実施した練習やトレーニングの効果を検証し、必要があればトレーニングや練習の内容を修正していきます。

そういったことを繰り返しながらどんどん強化を進めていくというのが一般的な体力測定の使用方となっております。ただ、桑名委員が仰ったように、実際に体力測定はしますけれども、高知県スポーツ科学センターでトレーニングサポートに関わっていないということも、やはり多くあります。

せっかく測定をしたのであれば、その後のトレーニングや栄養指導など、普段のトレーニングや練習がより効率的・効果的なものになるために、色々なサポートを使っただけでいいように、こちらの方向性を推し進めないといけないと思っております。

○矢野会長

よろしいですか。はい。スポーツ科学センターができてから劇的にこの競技力が向上しています。その中で実際には様々な部門で、専門領域で尽力をいただいている。メンタル・フィジカル・スポーツ栄養など、様々な領域のスペシャリストがいますが、本日大坪委員がいらっやっていますので、スポーツ栄養学の立場から、この強化に関してのご意見をいただければと思います。

○大坪委員

はい、日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士の大坪と申します。

スポーツ科学センターでサポートでは、集団指導や個別指導を行っています。今月は3回ほど伺う予定ですが、個別指導をしていると、貧血の改善や筋肉量の増加などが目に見えて分かるため、やりがいを感じています。

また、指導者の方が熱心な現場では、競技力の向上にもつながっていると日々感じています。

また、先ほど桑名市長がおっしゃっていたデータの活用についてですが、科学センターの人材体制を考えると、データを整理し、現場に分かりやすく返すところまでには、まだ一定の時間がかかるのではないかと感じています。これは私個人の考えかもしれませんが、そのように思っております。

この場をお借りして、2点お話しさせていただいてもよろしいでしょうか。

1 点目は、環境についてです。

子どもたちの生活環境やスポーツ環境という点で申し上げますと、例えば熊本地震の際にもありましたが、小中学校の体育館は避難場所としても重要な役割を担っています。

一方で、高知県の小中学校におけるエアコン設置率は 11.1%と、全国的にも低い状況です。予算の課題はあると思いますが、スポーツの普及や子どもたちの安全・健康を考えると、施設整備は重要な問題ではないかと考えています。

2 点目は、女子アスリートの指導を通じて感じていることです。

エネルギー不足の問題が多く見られ、競技生活だけでなく、将来の健康にも影響する可能性があると感じています。そのため、選択肢を狭めないという意味でも、日頃からその重要性を伝えるようにしています。

また、疲労骨折も比較的多く見られ、本来であれば起こりにくい年齢でも発生しているケースがあります。

そのため、幼稚園から中学校・高校までの間で、健康の土台となる「食」について学べる機会が、どこかにあるとよいと感じています。

●事務局

はい、手元に数字がないので、小中学校の体育館の件は言われた通りかもしれません。ただ昨年の会でも教育委員会から回答があったと思うんですが、まずは県立の特別支援学校の順次整備している状況です。今後、年間4校から5校ペースで、まず県立学校を整備していこうという計画が上がっているそうです。

避難場所として使われるということも出てまいりますので、まずは今、県立はそういう形で動いています。市町村の状況はちょっとわからないので申し訳ないですが、この猛暑で物凄い暑い中ということがあるので、生徒の活動を考えますと、まず県立としてはしっかりそういったこともやっているような状況です。

体の健康、食育に関しましては、今それぞれ栄養教諭が配置されておりますので、食育という部分で十分できるかと思います。小学校・中学校までになりますけど、先ほどのお話しのあったようなことを教育委員会の保健体育課にもしっかり伝えて、学校でそういうことも大事だ

ということでやっていただけたと思いますので、協力しながらやっていきたいと思います。

○桑名委員

高知市の小中学校なんですけれども、実際一つも入っておりません。特別支援学校が、今準備をしているところです。事情を説明させていただきますと、これまで全国的に学校の教室については、一斉に冷房を入れたのですが、高知市の場合は予算的に難しく、給食センターと特別教室が入っていないくて、あと体育館も入っておりません。

どこからやるかといったら、労働基準法の問題もあり、給食を作る所はやらなければいけなくなつて、今やっているところです。もう1つは、学校の中での特別教室、理科室や音楽室などの使用頻度からいったら特別教室の方が高いということで、今そちらをやっております。

それが終わってこれから体育館のほうに入っていくということですが、他の市町村も同じような形で、1割ぐらいしか入っていないということで、高知県全体を見ても、全国的に見て少し整備が遅れているのかなと思っております。

ただ、体育館でも暑くなりすぎて冷房がなければ、体育の授業ができないということもありますので、そこは順次やっていきたいと思います。特別支援学校をやった時に色んなデータが出てきますので、空調設備には色んなやり方があって、そのデータを採りながら、効率的に効果的な体育館の空調設備を設置していかなければいけないかなと思っておりますが、公立の小中は未だ入っていない状況でございます。

○矢野会長

ありがとうございました。先日、愛媛県の関係者とお話ししていたら、愛媛県は体育施設全部にエアコンを設置するということで動いているそうです。そういう意味では、本県の大会で使いたいけれども、エアコンが入っていないから使えないということもあります。春野が入って、県民体育館が入って、野市の青少年センターが今後入って。順次増えていくと思いますが、市営体育館にも入っていないですね。伊野にもないしということで、昔とは暑さのレベルが本当に違うので、事故が起きてからでは遅いと思いますし、この状況の中で地域に部活動を展開するという点にも、かなりマイナスが出てくると思うので、ぜひ県を挙げて改善をと思っております。

今城委員さんもいらっしゃいますので、教育長の立場からも教えていただきたいなと思います。

○今城副会長

先ほど事務局からもご紹介がありました県立の学校体育館につきましては、これまで以上に加速化しようと、南トラの本部会議でも報告をしているのですが、少し前倒しをしてやっこうということで、有利な起債（緊急防災・減災事業債）が使える間に、何とか進めてまいります。それが1つ。

スポーツ協会の会長という立場でも、皆様にご報告やお願いもさせていただきたいと思っています。この柱2の(1)にございますように、競技力向上に向けた強化策に関連してでございます。

本県の競技力を向上させるためには、選手はもちろんですが、指導者・競技団体・学校、それから行政がとにかく一体となった取組を継続していくことが重要であると考えています。

特にジュニアの世代から一貫した育成体制を構築して、優秀な指導者や競技者を育成していくこと、あとは科学的なトレーニングも大切になってくると考えています。先ほど事務局からの説明にもありました国民スポーツ大会ですが、R7の総合順位は46位ではございました。

しかし、入賞の種目数で見ますとR6の総合順位38位とほぼ同じということでございましたので、競技力そのものは確実に向上していると捉えております。この背景には、各競技団体が中長期的に強化を行ってきた成果が現れていること、そして県スポーツ科学センターによるスポーツ医科学サポートがしっかりと行われている結果だと考えています。

ここからはR8の青森国スポに向けてです。今年度、高知県で四国ブロック大会が6月下旬から順次行われております。7月26日までの状況をお伝えしますと、馬術・カヌー・ライフル射撃など多くの競技でブロックを突破している状況でございます。

なお、8月23日まで週末を中心に大会を開催しておりますので、もし時間があればぜひ応援もしていただければありがたいです。

一方、課題といたしましては、やはり少子化に伴い、競技者の数自体が減少してきているということがあります。ですから、今後いかにジュニアの育成を行い、系統的な強化を行っていくかが重要です。今後も各競技団体と連携しながら、競技の普及を図っていく必要があると考えております。以上でございます。

○矢野会長

はい、ありがとうございます。それでは、実際に本人もアスリートとしてゴールドメダリストとなり、今はスポーツ指導者としての学びを深めていらっしゃる櫻井委員、お願いします。

○櫻井委員

櫻井つぐみです。よろしくお願いします。レスリング競技に日頃関わっているのですが、スポーツ科学センターでメンタルトレーニングや栄養指導をしてもらうなど、すごく恵まれた環境で競技ができていると感じています。

最近私が高知に帰ってきてからジュニアの指導も始めたので、ジュニアの頃から食事が大切だと感じています。スポーツ科学センターの方に足りない部分を教えてもらったり、食育について学んだりする中で、子どもたちだけでなく保護者の方もレスリングをやるやらないに関わらず、子どもたちが成長する上で大切なことを学べる環境があるのは凄くありがたいので、これからも活用していきたいと思っています。

また、アスリートのキャリア支援にも注目しています。レスリングの場合、大学生になると関東の大学に行く選手がほとんどです。そこから高知に帰ってきて指導したいという子もいれば、関東にそのまま残ってしまう子たちもいて、本人たちがやりたいことはそれぞれですが、もったいないとも感じます。

高知に帰ってきたらこういうことがあるという、自分たちがこう育ってきた場所に戻ってくるのはすごく大事ですし、私は戻ってきてすごく良かったなと感じています。一度、県外に出て、高知とは違う部分を知った上で帰ってきたら、指導する中で高知でこそできることがたくさんあると思うんです。そういうふうに循環していけるように、高知県出身の選手の支援の方にもこれから力を入れていただいて、高知に戻ってきたいなと思えるシステムがあったらすごくいいなと思いました。

○矢野会長

ありがとうございました。今、櫻井委員の意見も非常に重要なもので、これは次にお話していただく柱3 スポーツを通じた活力ある県づくりに関しても関連するところでございますが、会議の方では、この柱3に移っていききたいと思います。

まずは屋内プロスポーツの誘致の話が出ておりましたが、9月5日開催のBリーグエキシビジョンマッチのタイトルスポンサーでもあります、高知新聞社の中平委員が今日お見えですので、中平委員に、まずはご意見を伺いたいと思います。お願いします。

○中平委員

高知新聞社の中平と申します。よろしくお願いいたします。弊社は野球で言いますと、高知ファイティングドッグス発足からずっと応援をしてきました。

それから高知ユナイテッドSCの方もクラブの時代からずっと手厚く応援をしてきたつもりです。今回屋内プロスポーツを誘致すること、それからプロバスケット、プロバレーボールを通じて地域の活性化を目指す、そういう取組が近年急速に広がっているように思います。

そういうこととお話をしまして、今回9月のBリーグとSVリーグのタイトルスポンサー、高知放送と一緒に手を上げさせていただきました。屋内プロスポーツの高知市での可能性みたいなものを探っていけたら思っています。

何よりも子どもたちに、やはりプロのスポーツを、本物のプレーを間近に見て欲しいという思いです。やはり、一生忘れられない体験になると子どもさんにとっても思いますので、そういう思いからタイトルスポンサーに手を上げさせてもらいました。9月に向けて放送面でも盛り上げていきたいと思っております。以上です。

○矢野会長

ありがとうございました。その地域にプロのスポーツが根付く、そしてそこに観戦に行くっていうようなこと、これはこれから高知県もますます加速していかなければいけないところである気がします。

ドイツでは、私が実際に日本の子どもたちを連れてドイツに行かせていただくときは、例えばスタジアムでプロの試合があるときは、そこに行く周辺の交通機関はすべてチケットを出したらタダになるんですね。

そうやって地域のスポーツを活性化させようという取組がさらなる企業連携の中でも行われていて、それを指導しているのは国であるというところがあります。そういう意味では、新しいこの転換期を高知県は迎えるのかなと期待を持っておりますが、同様に長年企業スポーツ

の中で尽力してくださっております四国銀行さん、今日は橋谷さんがいらっしゃってますので、ご意見もいただければと思います。

●橋谷氏(小林委員代理)

四国銀行の橋谷です。小林の代理出席でまいりました。私どもでは、社会人野球の公式野球部を持っております。今年で97年目を迎えますけれども、チームとして持っております。残念ながら都市対抗は負けてしまいましたけれども、日本選手権、頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

私はこのスポーツ誘致というところは、全般を見させていただいているんですけれども、実績と方向性と次のアクションプランまで出ていっているんですけれども、すごく盛り沢山で、人的リソースがすべてやるのに足りるのかなと、非常に大変な思いをして、メニューをいっぱい作って。

中でもやはりメリハリが必要だと思うんです。特にこのアマチュアスポーツ、プロスポーツの誘致のところで、大学生があまり入っていないんですけれども、プロ野球が帰ったり、それが終わったら大学生がキャンプに来てくれるんですね。同好会とか。

これ非常に数多いチームだと思うので。ここのエージェント業務ですね、そこでキャンプを開くにあたり、何が不便なのか、どういうふうにやったら継続的に課題解決ができるか、まず事務局で掴むということが一つ大事だと思います。

それと今の大学生とかプロスポーツは、100%データ野球、データに基づいてキャンプや体力を作っていると思いますので、先ほどの医科学の活用ですかね。この辺りどう連携ができるか、そういうメリットですね。

それからプールでクーリングをやる、プール施設があるとか、ここらの課題を見つけたら一年中そういう形で、若い大学生が来てくれるようになるのかなと。それから大学生の指導のところですけど、今大学生が就職活動をするのに、会社訪問に1週間行ったら単位をくれるという形で、大学2年生ぐらいから1週間行って単位をとるというのは、それはそれで動機付けではいいと思うんです。

これもボランティアで最初入口に入って経験させて、インセンティブを付けてあげるというのも一つの手かと思います。私はそういうふうに思います。

あとやはり課題を見つけてあげる。プロは試合で、キャンプではあるけれど、プロの要求は
お金が高いんでね、その辺は財政も厳しいかもしれませんが。アマチュアは高知に就職し
てくれる子も、結構何人かエントリーシートをくれた子もおります。

テニスサークルであったり、野球部でやってたり色々おりますので、そういった面でもいい。
やっぱりコーディネートと言いましたけれども、合宿が終わったあと、オープン戦をしたいんで
すね。

そういった形で高知やったら一つ上のチームで実業団とかファイティングドッグス、それから
高松へ行って JRさんとやったり、香川大学さんとやったり、中国へ行ってシティライトさんと。
そこから関西・東京とオープン戦を1ヶ月半ぐらいかけて春のリーグにいく。秋も同様やと思う
んですね。そこらの筋道をエージェンツ業務とか、課題解決を整理しながらいったら、かなり成
果はあるんじゃないかなと。私の個人的な考えですけれども、そう思いました。以上でござい
ます。

○矢野会長

このスポーツを重視した活力ある県づくりのなかで、健全な方だけではなくて、障害を持っ
た人たちのスポーツ活動というところも、これは対象になってくるところでございますが、今日、
井上副会長もお見えになっておりますので、障害者スポーツという立場も含めて、活力ある県
づくりについて、ご意見をいただけたらと思います。

○井上副会長

ご指名をいただきました社会福祉協議会会長の井上です。私どもは障害者スポーツセンタ
ーの管理運営を県から指定管理を受けてやっていることと、あと、色んな委託事業で障害者
スポーツの振興、それからアスリートの育成など、県と一緒にもさせていただいておりますけ
れども、スポーツを通じた活力ある県づくりというか、私どもの方で今課題になっているのは、
パラアスリートの発掘であったり、育成であったりというところではないかなと思ってます。

職員と話をしましたが、障害者のスポーツ指導員が、どっちかというと障害の特性は十分
理解して教えることはできて、競技スペシャリストではないので、競技種目ごとにその競技
に非常に長けた指導員が少ないということもあるので、参考資料1の方を拝見した時に書い
ておられましたけれども、スポーツ協会さんであったり、あるいは競技団体としっかり連携をし
て。

競技団体の方々がパラスポーツの指導員の資格も取っていただいて、そのスポーツを本当に専門でやって来られた方が障害者の指導・育成もしっかりできるような仕組みができれば、パラアスリートも増えてくるし、スポーツ医学へも人数が少ないという表記がございましたけれども、そっちにも繋いでいけるんじゃないかなと思ってますので。

今後の取組の中に書いてありまして少し安心しましたが、ぜひそのあたりスポーツ協会さんと連携、県との連携もさらに強化して、取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○矢野会長

はい、ありがとうございました。それでは、さらに子どものスポーツということについて、本日、寺村委員さん、少しご意見いただいてという事でお願いします。

○寺村委員

はい、子育て支援の寺村と申します。私は部活動の地域移行というのは、保護者側の立場としても、地域との繋がりという観点が非常に重要ななと思っていて、子どもたちが安心して地域展開の部活動運動も含めた公益的なことが、きっちりと目に見える形で先に分かっているというところの安心感も必要と思います。

少子化に伴い、複数の学校の子どもたちが一緒に活動する機会が増える中で、子どもたち自身が「どのような立場で地域のスポーツ活動に参加するのか」を理解し、安心して活動できる環境を整えることが重要であると思います。

地域展開により、多様な立場や経験を持つ指導者が子どもたちに関わることになるため、競技力だけではなく、子どもの発達や思春期への理解、ハラスメント等について、指導者が共通した認識を持つことが必要と考えています。

そのため、「教育していく」という表現については、子どもたちを教育するという趣旨ではなく、子どもたちが安心して活動できる環境づくりと、指導者が教育的な視点を持って関わるための研修・仕組みづくりが必要と思います。

あと、もう一つは移動の問題で、先日も北陸高校の遠征バスの事故もありましたが、高知県は中山間地域が多く、地域展開を進めるほど活動場所への移動が重要な課題になることから、送迎や移動手段、安全面についても一定のルールづくりが必要ではないかと思っています。

関東の高校の話では、保護者の通達の中にもきっちりと第二種免許を持っている方、免許も確認してくださいというような文章が入っているとお聞きしています。移動については、ある

程度のルール作りは必要じゃないかなと保護者としては思うところです。

私も大学生の母をやっているんで、先ほど高知の大学生の活用というところで、橋谷さんが仰っていたように、私も子どもたちもスポーツをやっていたということもあって、よく声がかかるんです。指導してくださいという声がかかるんですけど、大学生側からするとですね、指導の問題よりも、どういう立場で僕たちはその場所にいて、どう指導するのかっていうのが明確じゃないので、すごく不安だというんですね。それが1点。

それから、コアな競技になれば、資格者で審判をしてくださいという要請もありますが、競技によって資格が1級2級3級とかあって、その登録に結構金額がかかると聞いております。じゃあ、自分がその金額を出して、いくつ審判をするのか、ある程度わかってないのに、そんな金額は出せないっていうのが大学生のシビアな考え方です。

大学生が地域スポーツ活動に関わることは、地域との交流や学びにつながるだけでなく、就職活動や将来の進路にもつながる可能性があり、その活動自体に価値を持たせる「インセンティブ」の考え方も必要ではないか思います。

さらに、教育学部の学生だけではなく、様々な学部の学生が地域の教育・スポーツ活動に関わることで、将来、教育活動や地域活動に参加するきっかけにもなればすごくいいことだと思いますので、ぜひ考えていただけたらと思っております。以上です。

○矢野会長

はい、ありがとうございました。インセンティブという言葉が今出てきましたが、確かにこれからは大学生を活用しただけで終わらず、その人たちに本県に残ってもらって、さらなる教育、社会活動をしてほしいというのがあるんですね。

ですから、考え方の一つは採用試験の中の1つの評価指標の中に組み込むってということもあったり、企業に採用する時にも、そこが評価されるってようなことだと、それに対しての取組も随分変わるんではという気がいたします。

会議は、少し時間を押しております。ですので、次の議題に進みたいというふうに考えております。事務局から「第4期高知県スポーツ推進計画」についての説明をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

●事務局

議事(2)について、資料 2-1～2-2 を使用して説明。

○矢野会長

事務局から説明がありました、スポーツ庁の第4期スポーツ基本計画中間報告案及び、第4期高知県スポーツ推進計画に関して、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。

本日、様々なカテゴリーの中でテーマを決めて議論をしているところですが、実際に公立中学校の現場の校長さんとして、安達委員に意見をいただきたいと思いますが、部活動の地域連携のところがあったり、あるいは施設の件、そしてそこにいる子供たちの、スポーツにおける生涯スポーツであり、強化である。様々な視点の中からピックアップしていただいて、お願いいたします。

○安達委員

まず全体的なことになってしまうんですが、最初の柱1に出てきた子どもたちの実績の中に、運動が好きな子どもたちを増やすという実績と達成度の状況を見て、あっというふうに現場としては思いました。

考えていくと運動嫌いというよりは、今、現場の肌感、子どもたちの様子から言うと、魅力的な代替の選択肢が増えているのは事実です。文化活動にしろ、あとやはりタブレット、携帯電話というものが普及したということで、運動というのは、ある一定の負荷がかかって苦しい、辛い思いがあった後、成果が出る、達成感を得られるというものなんですが、今スマホのゲームなどはあまり負荷がかからず、達成感や成果が出るので、子ども達としてはどうしてもそちらで自分を満たしていくような形が考えられています。

やはり、その部分で考えていくと、つぐみさんのようなアスリートを見る、先ほど話したようなプロのものに触れる、それだけ積み重ねて継続していくことで、子どもたちも、よし頑張ろうというふうになるのではないかなと思うので、その機会をこうやって作っていただけるのはありがたいかなと聞きながら思いました。

あと女子がものすごく低いのですが、これも学校としても考えていかなければいけないかなと思っています。やはり、どうしても中2、14歳の子どもたちは、色んな他者の目を気にします。

体操服一つにとっても体型がどうだとか、ズボンの中に入れるといいのか、どうなるのかということを考えているので。やはりそうではない、結局、汗をかいて達成感を得られることに充実感を得られるようなことを考えていかなきゃいけないかなと思っています。

学校の技能教科といわれる体育、音楽、美術、家庭科、技術というものに関しては、体育だけが他と比較される。結局、勝ち負けが決まるんですよね。子どもたちは、美術の絵などは失敗がない、笑われることもない、というところでは安心していただいているのですが、体育の教科に関しては、やはり勝ち負けがついたり比較があったりして、しんどい部分なのかなと思います。

その辺を考えると、授業の中でダンスを入れてきているというところは良かったのかなと思いますので、また体育の教員とも話しながら、そういうところを加味しながら、中2の女子たちが生き生きとスポーツができるように、学校も考えていきたいと思います。以上です。

○矢野会長

ありがとうございました。本日はオンラインの方でも委員が参加してくださっております。まずお一人目、大阪成蹊大学経営学部スポーツマネジメント学科の丸委員さんがいらっしゃいます。丸委員、全般についてのご意見をお願いいたします。

○丸委員(オンライン)

大阪成蹊大学の丸でございます。重点課題1・2・3、本当にいずれにも重要な問題だなと感じながら拝聴しておりました。

ポイント2つほど、まず一点ご提案といいますか、ぜひご検討いただきたいと思うのが重点課題2のアスリートのキャリア形成支援ですね。柱の方でもご説明がありました。

実際私が大学で今キャリア教育を担当しておりまして、大学生のトップアスリートの就職事情としまして、いわゆるプロで食べていけるスポーツではなくて、働きながらトップアスリートとの両立をしなきゃいけない学生は一定数います。

じゃあ、どことつなげばいいのかっていうと、意外と大学の就職部にお声がけをいただくと、マッチングの率が上がるんじゃないのかなっていうのを、現場の肌感覚として感じております。ぜひ後ほどお声がけいただけたらありがたいなと思います。

先ほどお話にもあったように、高知からある程度、都市部に出る学生もいて、高知に帰りたいアスリートもいれば、競技ができる環境があれば日本全国どこでも行きますっていう、アスリートも多いので、ご検討いただければと思います。

もう一点が重点課題3ですね。スポーツを通じた国際交流、教育ですけども、バレーボールのSVリーグさん、バスケットボールのBリーグさん、今、アジア海外戦略が、非常に活性化しております。で、地域貢献をしたいという大学生が、現代は増えてきているなという感触がありまして。それこそ四国銀行の橋谷さんが仰っていたように、当学も実はインターンシップやボランティア実習による単位認定制度があります。

でも、それはきっかけの一つに過ぎなくて。実際に行ってみて、学生本人が色んな気づきを得て、それがきっかけでその地方に就職してマネジメント、地域活性化をしたいという学生が年々増えてきていますので、ぜひプロチームさん、プロリーグさんとの連携を、そういった若者の、新しい就職の場だとか、活躍の場にぜひ活かしていただければと感じました。以上です。

○矢野会長

ありがとうございました。では、もうお一方、柳委員がいらっしゃると思います。ええ、柳さんの場合には、ダンスというものをこう中軸にされた展開ということがご専門でいらっしゃると思いますが、そのあたりも含めて、ご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○柳委員(オンライン)

ありがとうございます。PERF 株式会社の柳です。オンラインより失礼いたします。発言の機会ありがとうございます。

私はチェンジラブチャーズというプロのダンスリーグ、Dリーグに参画するチームの代表を務めています。発言の場をいただきましたので、地域スポーツの参画拡大に関して、民間の視点から感想と一部意見を述べさせていただければと思います。

今日冒頭にご説明をいただいた第3期の資料の1-2を拝見しながら、新たなスポーツの推進みたいな分野で、eスポーツやダンスなど含むアーバンスポーツが目標を大きく超えるような成果を上げている「S判定」といったところに、手前味噌ながら注目をさせていただきながらお話を聞いておりました。

私どもPERFでもチームの活動を通じて、ダンスやアーバンスポーツが持つ、若者を一瞬で引きつけていく熱量や、若者を惹きつけるだけではなく、お子さんから見守る保護者まで世代を超えて巻き込んでいくエンタメ性みたいなところを、高知での活動を通じて、現場で強く実感している次第です。

今後、こういうのを単発で終わらせずに日常的な運動習慣にどう繋げていけるかが、今後のポイントだと感じております。参画拡大に向けて2点ほどご提案があります。

1点目は、反応が良かった取組をどう定着させていくのかというところで、ダンスなどを持続的な地域コミュニティの核に育てていくことはどうかと思っています。

地域の中で子どもたちが日常的に踊れる場があったり、今みたいにトップレベルに触れられる機会があったり、またダンスなので成果を披露できるような発表の場自体をフロー化、仕組み化していくことで、子どもだけではなく親世代まで巻き込んだ、新しい地域スポーツの拠点や居場所が作れるのではないかと考えています。

これ自体は時期も近い高知のよさこいを見ている、街の体温が上がっている感じというか、街とコミュニティが熱狂している高知ならではの姿を見ながら、非常に高知と相性の良いコミュニティづくりになるのかなと思っておりまして。「スポーツ×若者」みたいなテーマに閉じたような仕掛けの、外側にも影響が出やすい取組になるんじゃないかと思ってます。これが1つ目でした。

2つ目、手短になんですけど、資料を見ていて成人のスポーツ実施率自体が「D判定」の37.9%という形で、これも課題として捉えられているのかなと思ってます。

成人のスポーツって、結構ハードルが高いと思う中で、成人層や無関心層に向けて、ダンスや音楽といったアプローチは比較的有効なのかなと思っています。我々のような立場が、これまでスポーツと文化の丁度交差点みたいな位置にいるので、だからこそご提案になるんですけど、いわゆる勝敗を競うスポーツみたいなところに抵抗があったのか、自分自身がスポーツ・運動系というより文化系と自認されている成人層の方々にとっては、スポーツ参加はハードルが高いというか接点がないと思うので。音楽に合わせて体を動かすとか、フィットネス感覚で楽しむというスタイルであれば、だいぶハードルは下がるかなと思います。

こうしたカルチャー的な部分の力を生かすことで、大人のスポーツ推進の向上にも新しいアプローチとして寄与できるのかなと思っておりまして。私としては以上です。第4期の計画に向けて、私どもで課題に何かしらアプローチや還元できることがあればと思っています。以上でございます。

○矢野会長

はい、ありがとうございました。それでは本日、この会議はその他が多くございます。ですので、まずは残りの時間を使いまして、議題その他についての説明を事務局からお願いいたします。

●事務局

その他について、資料3～6を使用して説明。

○矢野会長

それでは事務局から説明のありました「その他」について、ご意見ご質問ございませんでしょうか。

よろしいですか。本議題はこれで最後になりますが、どうしても最後にこれだけは言いたいということがございませんでしょうか。よろしいですか。はい、お願いします。

○中平委員

もう時間になっておりますので手短に。高知新聞の中平と申します。当社の運動部の記者が日頃から取材活動を通じて感じている課題、部活動の地域展開についての意見を言わせていただきたいと思います。

資料4、10ページの左側、現状の課題の中で、県教育委員会の課題として、指導員の確保、財政の確保、生徒の移動手段の3つを挙げておられます。まさにこの3点に集約されると思います。

令和8年度取組としては、補助金の活用事例を紹介されておりますが、学校部活動の地域クラブへの移行を成功させるためには、やはり国による安定的な財政支援が不可欠だと思います。

現場では指導者不足、それから大会運営の担い手不足、移動手段の確保、安全対策と多くの課題が指摘されてます。取材記者は、これらの課題を最終的に財源の問題に行きつくと指摘をしています。

例えば地域クラブを支える指導者を確保するためには、責任に見合った報酬や経済的な対価が必要です。また大会運営を教員依存から脱却するためには、新たな人材確保が必要だと求められます。

さらに複数校の生徒が参加する地域クラブでは、移動費や安全対策のための経費も必要になります。こうした費用を1つの自治体だけで負担するというのは限界があると思います。

特に過疎地域を抱える本県では、都市部と比べて人口が少なく、指導者の確保も難しい。その上で移動距離も長くなる傾向にあります。そのため、地域展開に必要な経費は、むしろ都市部より多く膨らむと思います。

一方で、自治体財政というのは厳しくて、独自財源で十分対応できない状態です。これが現実だと思います。ということで、こういう国に対する財政支援を求める場合、本県だけではなく、全国の自治体とともに、人口減少や過疎化に進む県で共通する課題として連携してやっていくことは大事ではないかなと思います。

○矢野会長

ありがとうございます。非常に貴重な提言でございましたが、事務局の方からお願いします。

●事務局(県教育委員会)

少しだけ、今、委員がおっしゃることは非常に大事な事かなというふうに思います。そうした実情をふまえて、全国知事会などを通じまして国に対して提言を行っているところでありますし、また教育長もこの5月に、やはり実情に応じたという点を含めまして、文部科学省には提言をさせていただいたところであります。

いずれにしても、持続可能な形でやはり部活動の地域展開というのを進めなければいけないと思いますので、また教育委員会事務局としても、しっかりと取り組んでいきたいなと思っております。

○矢野会長

ありがとうございました。ほかございますでしょうか。お願いします。

○桑名委員

この部活動の地域展開、冒頭知事がおっしゃったように、先般、高知県の市長会でもありまして、これはどのように展開していったらいいのかということで。先ほどありました財源の間

題というのは、地方自治体にとって大きな問題です。

今、お金が掛かってないんですね。部活動って。それは今度、新たな財源を支出していかなくてはならないということを、ここのところは我々も国に対して言っていきたいと思います。

そしてもう一つは、地域展開というのは、教員に対する働き方改革のこともあるんですけども、やっぱり子どもたちのことも考えていかなくちゃいけない。例えば、ステップ1のところで、休日に地域展開をする。でも、そこにはまた、教員が兼業できとなった場合、子どもたちも実は毎日クラブ活動をやりたい子ばかりじゃないと思うんですよね。

休みたいけど、そこにまた同じ先生がいると言ったら、みんな行かなかったら、同調圧力の中で子どもも「クラブやめようか」というようなこともあるかと思いますので、そういったことも考えながらクラブ活動というものをやっていただきたいと思います。

そしてこれ最終的には、休日の部活動地域移行へということなんですけれども、高松市は来年9月から全てのスポーツクラブ、文化クラブっていうのを中学校から廃止をするとお聞きしているんですけれども、それが最終的な姿になっていくんでしょうか。

●事務局(県教育委員会)

高知県の方も今、国が示しましたガイドラインに沿いまして方針を出させていただいております。大体国に示された方針に沿っているというところであります。

早いところは確かに高松市といった事例もありますけれども、実際は、やはりそれぞれの実情に応じるというのがあってと思いますので、ステップ2の原則という形で出させていただいているところはあります。

ただし、それはやはり取組を進めた上で、どうしても行かなければならなくなった場合、全てはやはり子どもたちがしっかりクラブ活動をするというのがまずは大事だと思いますので、そういう形で出させてもらっているんですけれども、基本的にはこの方針にある通りやっていきたいと思っております。

○矢野会長

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。皆様のご協力により、予定しておりました議題を無事終了することができましたことに感謝申し上げます。それでは事務局に進行をお

返しいたします。

●事務局(部長挨拶)

長時間にわたり様々な角度からご提案をいただきまして、誠にありがとうございます。まずは本年度、令和8年度 of 取組をしっかりと行いまして、アンケート調査等々も含めまして、来年度、次の第4期の計画づくりの方にも入って行きたいと考えておりますので、引き続き、委員の皆様にはご意見・ご提案をいただきながら、次の計画に向けて進めていきたいと思っておりますので、ご協力をいただければと思います。本日は、誠にありがとうございました。

○矢野会長

ありがとうございました。そして、オンラインで参加いただきました丸委員、柳委員、どうもありがとうございました。

●事務局

それでは、以上をもちまして令和8年度第1回高知県スポーツ振興県民会議を終了いたします。第2回は、来年1月頃を予定しております。詳細な日時等につきましては、おってご連絡させていただきます。それでは皆さま、本日は長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。

以上

議長署名

矢野 宏光